



札幌組お待ち受け法要・ 帰敬式を終えて

副組長 高塚 浄正

7月9日・10日の両日、札幌組お待ち受け法要・帰敬式が、組内4カ寺を会場に、盛大に執り行われました。昨年からの準備をすすめ、今年、実行委員会が発足した時には、本当にうまくいくのが不安もありましたが、事務局の方々が先頭に立って実行委員会を牽引して下さい、当日は600名近い遠近各地のご門徒の皆さんが、法要や帰敬式のご縁を結ぶことができたことは、札幌組にとって大きな財産になったと思います。私自身も法要に出動させていただき、大変感動いたしましたことでありました。これまでも組をあげての事業はありましたが、今回ほどの規模の事業はなかったように思います。益々、来年の大遠忌法要への気運が高まることでしょう。

この度の法要・帰敬式で、初めてお寺に足を運んだ方がおられて、「多くの住職さんたちが、一堂に会して、一生懸命、協力しあって参加者のお世話をされている姿に感動しました」と話されていました。ありがたい言葉でありました。

反省すべき点はたくさんあったと思いますが、それらの一つひとつをキチンと総括して、次の事業につなげていけることを心から願っております。会所寺院を快く提供して下さいましたご寺院のご住職さんをはじめ、ご参加いただいた各寺院ご住職さん、実行委員の皆さんには、たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

合掌

組基推委の動き

研修局

札幌組僧侶連続研修会開催

研修局では、年間に4～5回の僧侶連続研修会開催を予定しています。

本年度はすでに第3回まで開催しましたが、札幌組お待ち受け法要で勤修されます宗祖讃仰作法の実践編として、お勤め並びに作法の習礼を行いました。



講師に上山知現北海道教区勤式指導員をお願いし、第1回目は、5月12日、覚英寺に於いて開催され、参加者は37名でした。

第2回目は、7月1日、本誓寺に於いて開催され、参加者は44名、第3回目は、11月15日、札幌別院に於いて、32名の参加がありました。3回ともに多くの方に参加頂き、充実した研修会となりました。

札幌組第15期連研開催される

9月11日、札幌別院において、「札幌組第15期連研」が開催されました。当初計画では、1月より開講の予定でありましたが、参加人数の関係上、9月の開催になりました。

当日は、開講式の後、「宗教（私の宗教観）」のテーマのもとに浄土寺佐々木光明住職による問題提起。その後は参加者が4班に分かれて1時間の話し合いを持ちました。続いて各班より発表を行い、講師よりそのまとめをいただきました。第1回目の開講にもかかわらず、活発な意見が飛び交い有意義な研修をすることができました。



第2回目は江別市の眞願寺にて10月16日に開催しました。

連研は講義形式の研修会等とは違い、ひとりひとりが疑問に思っている事や、感じている事を「話し合い」という形で意見しあうことのできる研修です。色々な方々の意見を聴く事や自らが話すことでより深く内容（テーマ）を考える事が特色です。今後、1ヶ月に1回開催し、閉講まで約12回の開催を予定しています。



第3回は11月20日 札幌別院で開催され、第4回は12月11日に眞願寺で開催予定です。

組織局

平成22年度札幌組門徒総代会総会

6月14日（月）、札幌市中央区の「ヤサカ」を会場に本年度札幌組門徒総代会総会が行われました。各寺院の総代代表者の出席をいただき、平成21年度事業報告及び決算報告、並びに本年度事業計画予算案が役員会より上程され、議案通りに満場一致にて採決されました。この中で、高間会長より、札幌組の親鸞聖人大遠忌お待ち受け法要の各事業への協力と参加を呼びかけられ、本年度の事業としては、その各事業への協力と参加をもって会の事業とする旨を伝えられました。又、会の協賛金として本年度予算で20万円計上し、教化伝道に役立てていただくこととなりました。

その後行われた懇親会の席では、藤田組長より感謝の言葉をのべられ、各寺院の総代代表者各位から、事業完遂への激励を受けました。



第2回札幌組主催「壮年の集い」

10月31日（日）、札幌組壮年の集いが本願寺札幌別院で行われ、6ヶ寺40名が参加しました。別院内を見学させていただいた後、本堂で開会式。ホールに移動し、各会の活動報告を受けました。札幌組で壮年会の活動をしているのは、札幌別院、光明寺、真照寺、真願寺そして敬念寺の5ヶ寺で、婦人会活動に比べると大変少なく、壮年が集まること自体が難しいとされています。しかし、一度会が発会されると自主的に運営され、お寺の大切な「力」となり、会員同士のつながりも深くなります。そんな壮年会の各会ごとにアイデアを出し合いながら、活動をしていることを学びました。その後札幌別院輪番の法話をいただき、親鸞聖人の御生涯や、安芸門徒の精神など、わかりやすく聞かさせていただきました。

懇親会は、宮ノ森ガーデンでジンギスカンとビールで懇親を深めました。札幌組にも壮年の輪が少しでも広まり、仏縁が広まればと願うばかりです。参加された皆様ありがとうございました。来年は石狩光明寺で行われる予定です。



組織局婦人部報告

去る平成22年5月28日、札幌別院において、札幌組仏婦連盟総会と研修会が開催されました。明年の法要に向けて、本願寺の歴史を学ぶべく、空知北組円満寺金龍慶静住職を講師に来ていただき、大変有意義な研修をしました。

又、8月23日（證誓寺、参加15名）、10月15日（札幌別院、参加35名）と2回にわたり、仏婦会長報恩講参拝が行われました。特に證誓寺においては、斬新なアイデアや立派に新築された證誓寺本堂の内陣の荘厳さに一同感動し驚嘆したことであります。

教区会報告

2010（平成22）年臨時教区会を中心に

- ◎ 去る7月20日に標記臨時教区会が開かれました。以下その概要を報告致します。

議案として提出されたのは2009（平成21）年度、教区歳計決算（一般会計）の他、教学振興資金、退職積立金、地方災害対策、平衡資金、及び親鸞聖人750回大遠忌教区法要事務所歳計決算（いずれも特別会計）の6件です。

議案説明の後、監査報告があり慎重審議の結果、すべて可決承認されました。

（監査に関連して、各種会計報告書が輻輳し理解しづらいことから表記を複式簿記に改めてはという門徒議員の提案がありました。しかし、書式自体はすべて本山の例になっているとのことです。）

- ◎ 歳入額の合計98,693,882円に対し、歳出合計は87,035,526円で余剰金は11,658,356円に上りました。

多額な余剰金を計上した背景には、当初予算に対し、伝道教化費2,353,744円の減をはじめ会議費、基幹運動推進費、教務所職員の人件費などが200万～400万円それぞれ減額となっているためです。

- ◎ 本年は「大遠忌」関連の教区、別院の法要や諸行事が重なり、結果として基幹運動をはじめとする研修、協議の場が狭められていることは否めません。

一方、宗派から3,000万円の巨費が交付され、総額4,450万円に上った札幌市における都市法要や各種イベントについては、企画実行にたずさわった僧侶、門信徒の皆さんのご苦勞を多としながらも今後、伝道教団の再生と、お念仏を依りどころとした寺院の振興にどう切り結んで行くべきか、その成果と課題を十分に検証していかねばなりません。

この度の教区会でも、法要行事の遂行にのみ関心が注がれ、大遠忌の意義を広く共有して行く視点に乏しいとの意見が出されたほか、より適切な情報を提供し、論証を深めるべき「教区時報」のあり方にも苦言が寄せられ、その停滞ぶりを心配する声がありました。

- ◎ 末尾になりましたが、去る8月24日未明、石狩市厚田区の本照寺（寺内俊雄住職）様には集中豪雨による河川の氾濫で堂宇が床上浸水するという大被害を受けられました。10月末現在、被害の詳細は教区を通して本山に報告済みとうかがっていますが、今後支援の方策が迅速に進められることを願っております。

誌上をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

文責・僧侶議員 木村 良磨

札幌組親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け事業

ご門主は「親鸞聖人750回大遠忌についての消息」に「各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております」と述べられ、このご消息をうけて、札幌組親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け事業を開催することになりました。先、準備委員会を立ち上げ、何度も種々の議論を重ね、次のような基本計画が組会において承認されました。

- ①平成22年7月9日（金）・10日（土）の両日に二寺院で「札幌組 親鸞聖人750回大遠忌法要」を修行し、その際に帰敬式を行う。
- ②11月27日に、札幌市教育文化会館大ホールにおいて、「親鸞聖人750回大遠忌の集い」を開催し、音楽法要・講演会等を開催する。
- ③本山の常夜灯を移灯し、法要の際に内陣荘厳に点火。それを各寺院に持ち帰り、「集い」当日に再結集する。
- ④11月27日の「集い」は僧侶・寺族・門信徒の共同参画型をめざす。

この取り組みは、内（門信徒）と外（社会）に対する二つの取り組みを考慮した取り組みで、協議会・参与会、臨時組会において承認を受け、実行委員会を発足し、実働体制に移行して行きました。

札幌組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要事業実行委員会



世のなか安穩なれ



※敬称略、○印は各部担当責任者

札幌組 親鸞聖人750 2010年(平成22)

7月9日(金)、光円寺、覚英寺に於いて、
敬式(お剃刀)が執り行われました。

光円寺では89名、覚英寺では75名、眞願
厳かな雰囲気の中で受式し、本願寺 近松照

近松侍真の威厳のある立ち居振る舞い
受式者には一生忘れることのできない一日と

2日間で延べ596名の門信徒が受式され

覚英寺、本誓寺に於いては帰敬式の後、
待ち受け法要」が組長の導師により厳修さ

信徒など200名余りが参拝され、本誓寺に
法要後、本願寺派布教使 上川南組永楽

河白道」を中心に、お念仏のみ教えを熱く
詣者は親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ聴聞し

2日間にわたる法要・帰敬式でありました
当日は多くの方々にご協力いただいたおが



札幌組 親鸞聖人750回大遠忌法要・帰敬式 2010年(平成22年)7月9日-10日

7月9日(金)、光円寺、覚英寺に於いて、
敬式(お剃刀)が執り行われました。

光円寺では89名、覚英寺では75名、眞願
庵かな雰囲気の中で受式し、本願寺 近松照

近松侍真の威厳のある立ち居振る舞い
受式者には一生忘れることのできない一日と

2日間で延べ596名の門信徒が受式され
覚英寺、本誓寺に於いては帰敬式の後、

待ち受け法要』が組長の導師により厳修さ
信徒など200名余りが参拝され、本誓寺に

法要後、本願寺派布教使 上川南組永楽
河白道)を中心に、お念仏のみ教えを熱く

詣者は親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ聴聞し
2日間にわたる法要・帰敬式でありました

当日は多くの方々にご協力いただいたおが

翌10日(土)、眞願寺、本誓寺に於いて帰

寺では202名、本誓寺では230名の門信徒が、
俊侍真より法名を拝受されました。

や、よく通る声で大変厳粛な帰敬式となり、
して、深く脳裏に刻まれたことでしょう。

ました。

札幌組における『親鸞聖人750回大遠忌お
れました。覚英寺には法中、坊守、総代、門

は340名余りの参拝をいただきました。

寺永江龍心住職による記念法話があり、「二
語りかけるようにお伝えいただきました。参

ておられました。
が、両日とも天候に恵まれ、また、法要準備
げで、無事に勤めることができました。



回大遠忌法要・帰敬式

期) 7月9日・10日

翌10日(土)、眞願寺、本誓寺に於いて帰

寺では202名、本誓寺では230名の門信徒が、
俊侍真より法名を拝受されました。

や、よく通る声で大変厳肅な帰敬式となり、
して、深く脳裏に刻まれたことでしょう。

ました。

札幌組における『親鸞聖人750回大遠忌お
れました。覚英寺には法中、坊守、総代、門
は340名余りの参拝をいただきました。

寺永江龍心住職による記念法話があり、「二
語りかけるようにお伝えいただきました。参
ておられました。

が、両日とも天候に恵まれ、また、法要準備
げで、無事に勤めることができました。



札幌組 親鸞聖人750回大遠忌の集い

去る11月27日、教育文化会館大ホールを会場として多くの組内寺院協力の中に「札幌組親鸞聖人750回大遠忌の集い」が開催されました。

7月に本誓寺、覚英寺で勤修された法要は、帰敬式と法要が中心でしたが、この度は、広く門戸を広げて、音楽法要、朗読劇、そして講演会と視点を変えて開催されました。

音楽法要には、組内寺院の僧侶、札幌雅友会、札幌別院コーラス「響流さっぽろ」、乗善寺仏教婦人会コーラス部、安楽寺コーラス「シャンティ」、福住寺コーラス「アミーダ」、札幌龍谷学園高等学校合唱部の総勢140名余りによって「宗祖讃仰作法音楽法要」が藤田組長導師のもと荘厳裡に修業されました。

引き続き、チーム一番星による朗読劇「いのちのいろえんぴつ」が演じられ、最後は「今、いのちの真実を深く見つめる」のテーマによる高史明氏の講演をいただきました。藤田組長は「この集いが、親鸞聖人のお心に触れていただき、「いのち」を見直す尊い機縁になっていただければ・・・」と締めのご挨拶を述べられ会場の700人余りの人びとは、明年に迎える本山の「親鸞聖人750回大遠忌」の大きな意義を新たにしました。



平成22年5月23日 札幌市における都市法要

平成22年5月24日 札幌別院「親鸞聖人750回大遠忌法要」

去る平成22年5月23日、24日の2日間にわたり、本願寺札幌別院にて都市法要ならびに別院大遠忌法要が勤まりました。全道各地から大勢のご門徒が来院され、厳粛かつ賑々しいご法要となりました。

都市法要にはご門主様ご臨席を賜り、別院の法要においては新門様にご出座をいただくという地方別院としては大変貴重なご縁をいただいたことでもあります。本願寺派布教使としてお越しいただいた深川倫雄師におかれましても貴重なご法話をいただき、ありがたく拝聴させていただきました。50年に一度のご縁に帰敬式を受けられた方は313名おられました。受式者の方々は一様によろこびの表情を浮かべ法名を受けとられている様子でした。

来年は、いよいよ本願寺にて親鸞聖人750回大遠忌法要が勤まります。地方のお念仏の声が本願寺に響き渡ることを念じ上げます。



札幌組内寺院の動き

大乘寺 住職継職慶讃法要

平成22年6月19日、大乘寺開教50周年並びに第三世住職継職法要が厳修されました。

「50年前の開教当時、小さな道場でお寺はリンゴ園に囲まれ、裏には定山溪鉄道が走り、列車が通る度に法座を中断していたと伝え聞いております。その後、2度の寺基移転を経て現在地に落ち着き、温かなご支援の下、多くのお同行が集える念仏の道場となりました。

父である第二世住職も心待ちにしておりました開教50周年でありましたが、昨年往生し、叶う事は出来ませんでした。しかし、多くのご法中に出動賜り、多くのご門徒が参詣して下さいましたこの度の法要を、きっとお浄土からよろこんでくれていた事だと思います。

まだまだ若輩者の住職ではありますが、精一杯歩んで参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

大乘寺 第三世住職 打本 大志



萬行寺 住職継職慶讃法要

平成22年6月27日、萬行寺三世住職の継職法要を行い、釋宗尚が法灯を継ぎました。

「本来継職には早い若輩者ですが、父の病状の悪化により急速継職することとなりました。

父の病名は、多系統萎縮症に伴う小脳性運動失調体幹機能障害という難病で大変進行が早く、車椅子に座っていると一見健康そうに見えますが、自力で立ち上がることもできず、また会話も困難になり、いずれはチューブで直接胃に食べ物を入れる胃瘻や、人工呼吸機も必要になります。

前住職の在任期間は10年とたいへん短く残念ではありますが、直接手渡しで帰敬式用の剃刀を受け取るべく少しでも元気なうちにとの思いから、時期尚早ですが執り行いました。

勉強不足、経験不足のわたくしでございますが、益々の仏法繁昌目指し頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

萬行寺 第三世住職 坪井 宗尚



・ 組内 寺院あれこれ ・



心なごむ懐かしい歌声喫茶 開店

福住寺スイング サロン「アミーダ」

ともに笑い、ともに語った懐かしい日々。振り返れば思い出の日々…誰にも、懐かしい青春があります。そこには、いつも忘れられない歌がありました。

お寺で歌声喫茶？と思われるかもしれませんが、福住寺では、歌声喫茶を始めました。毎月第3火曜日、午後2時より、ワンコインで懐かしい歌をうたったり、お茶を飲んだり楽しい一時を誰でも気軽に参加できます。

カラオケは苦手という人、ピアノの演奏でみんなであいっしょに歌っています。「なごり雪」「若者たち」「高校三年生」「知床旅情」... カラオケのなかった時代、みんなで歌った童謡やフォークソング、ポピュラー等の1950年～70年の歌が中心です。



○ ご結婚おめでとうございます ○

真照寺 松本昇陽さん
めぐみさん

この度、私達は5月23日、真照寺本堂にて結婚式を挙げましたことをご報告致します。

結婚披露宴では、たくさんの方からお祝いと激励の言葉を頂戴し、良いご縁をいただいたことの喜びを感じると同時に、法灯を継承してゆくことの重責を改めて実感致しました。

何分、未熟なふたりではございますが、これから微力ながら護寺発展に努めてゆく所存でございます。

今後とも、皆様方のご指導、ご高誼の程よろしくお願ひ申し上げます。 合掌



安楽寺 横湯誓之さん
寿美玲さん

今年7月、寶流寺前住職・坊守様ご媒酌、眞願寺御住職ご司婚のもと、有縁の方々にご心配を掛け続けた私がおかげさまで、やっと結婚することが出来ました。

思えば、12年という長い年月を過ごしてきた彼女と一緒にいることが出来たこと、本当に嬉しく思っています。

坊守の仕事は本当に大変だと思います。お寺で生活するようになっておもしろいのは、とにかく数とか量に驚いているところです。「今日はお米一升五合炊いてね」とか、「今週は延べ200人はお寺に来られたね」と言っ目て目を白黒させていることです。早く母親の良いところだけ??を真似て、お寺という環境に染まって欲しいと思うことでございます。

今後とも有縁の皆様にご指導頂きながら子育てを賜りたいと思うことでございます。この度は誠に有り難うございました。 合掌



ニューフェイス New Face

覚王寺 内平 淳一

今年の春、自坊に戻り法務を手伝っております。昭和57年7月7日生まれの現在28歳です。今は、久しぶりの家族での生活や札幌での生活、そして慣れない僧侶としての生活と、毎日が期待と不安の連続です。趣味は読書というより活字中毒です…。他には、京都に住んでいた頃に文楽(人形浄瑠璃)を観るために大阪の劇場へ通ったという時代錯誤な趣味もあります。まだ分からないことも多く、皆様にはご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、何卒、宜しくお願ひ致します。



会長に就任して

札幌組寺族婦人会 会長 佐々木 祥子

昨年の総会におきまして、ブロックごとの順おくりとはいえ、私のような若輩者が、寺族婦人会の会長をお引き受けすることになりました。

前坊守のいない、開基坊守の私としては、寺族婦人会はベテラン坊守さま方と親しくお話をさせて頂いたり、色々教えて頂く場で、若坊守のような気持ちでおりました。そんな私ですので、私で会長が務まれば、次の方も引き受けやすいだろうなどと考えてしまいました。

実際、役員の方々の助言を頂きながらの会の運営です。総会や研修会の参加者が少ないと、会長としての責任を痛感しております。

札幌組は、教区内でも若坊守が多いようです。活気ある寺族婦人会になるようにと思っておりますので、子育てなどで大変でしょうが、是非、お二人揃って参加して頂きたいと思っております。不慣れた会長を助けてくださいますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。

おくやみ

福住寺 第五世坊守
法名 寶樹院釋瑞華

長尾タツコ 様

平成22年4月1日 95才



去る4月1日、福住寺第5世坊守、長尾タツコ様が、95年間の人生を静かに終えてお浄土にお還りになりました。

お寺に嫁いで70年余り、門信徒と共にお念仏繁盛、福住寺護持の為尽力され、心和ませる自然の花を愛した坊守様でした。

平成20年元旦に倒れ、以来、病院のお世話になる回数も多くなりましたが、福住寺開教120年記念事業の庫裡改築や永代廟の建設のご縁にも遇われ、これらの完成をはっきりと見届けることができ大変喜んでおられました。

昭和37年仏教婦人会が再発足して以来、仏教婦人活動に熱意を注ぎ、晩年は自分の体が優れないのにも関わらず、優しく声を掛けられて生きる喜びを感じさせる坊守さんでした。又、社団法人「心の里親」に入会されて50年余り、子供達の心を支える奉仕活動を積極的にされ、記念誌「心の里親40周年」の編纂にも手をかけられ、里親の足跡に大きく貢献されました。

坊守生活70年という永い年月は、決して楽な日々ではなかったと思いますが、多くの人に囲まれ、支えられながらお念仏と共に生き抜かれた坊守さんは、本当に喜びの多い人生であったことと思います。永い間、本当にお疲れ様でした。

編集後記

「私は刑事です。今からあなたを逮捕に行きますので必ず家において下さい... とは絶対いわない.... すなわち不幸は、自分の知らない間に知らない場所で、勝手に育って行って、ある日突然、目の前に現れるという、重要な事実である。幸福は、逆だ。幸福は、ベランダにある小さなかわいらしい花の苗だ... 少しずつ成長する。何も起こってないように見える間に、すべてのことがおこっているのだ。」作家村上 龍さんの本より引用。目に見えない大いなる力に驚き感謝しつつ、又、どんなことも必然なことであったと受け止めたい。(N・M)